

カワヂシャ

全国各地の川岸、水路、水田などの浅い水中や湿った泥地に生育します。植物全体がやわらかく、丸い茎にぎざぎざ（鋸歯）のある葉を向かいあってつけます。

初夏に、白にうすい青色の筋のある小さな花をたくさん咲かせます。若い植物が食用になることからカワヂシャと名づけられました。

カワヂシャは国の絶滅のおそれのある植物に指定されています。最近ではヨーロッパ・アジア原産のオオカワヂシャが各地で分布を広げています。オオカワヂシャはカワヂシャより大きくて濃い緑色の葉をつけ、花がより大型で色が濃いことなどで、在来種のカワヂシャと区別できます。カワヂシャとオオカワヂシャの雑種も確認されています。

富士市での現状

傾斜が緩やかな地域や平野部を流れる河川や水路に生育しています。湧水が流れる河川では、浅い水中で水上に茎を伸ばしていることが多いですが、すんだ水中に沈水植物の状態でも生育しているのもよく見かけます。旧富士川町域では確認されていません。しかし、富士川下流の両岸では、オオカワヂシャの生育が確認されています。



(右上) カワヂシャの花 (下) カワヂシャの生えている様子

カワヂシャを確認したメッシュ

